

2 被害の概要

(1) 浸水と地盤沈下

東北地方太平洋沖地震による津波により東日本の太平洋沿岸部の地域が津波によって壊滅的な被害を受けた。国土地理院の発表によると、青森県・岩手県・宮城県・福島県・茨城県・千葉県・宮城県の6県64市町村の合計浸水面積は561^{平方キロメートル}にのぼる。県別で見ると宮城県が最も多く327^{平方キロメートル}で、ついで福島県の112^{平方キロメートル}、岩手県は58^{平方キロメートル}となっている。仙台平野を中心とする宮城県が圧倒的に多く、リアス式海岸で低地の少ない岩手県沿岸部は、浸水高は大きい浸水面積は小さい結果となっている。宮古市の浸水区域は、市域1千260^{平方キロメートル}のうち10^{平方キロメートル}が浸水した(図表10)。

各地で地盤沈下や液状化現象も発生し、液状化による被害は1都8県(岩手県・宮城県・福島県・茨城県・群馬県・埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県)で深刻な被害をもたらした。国土交通省の電子基準点の解析結果から東北地方の太平洋沿岸において顕著な地盤沈下が確認された(図表11)。岩手県・宮城県・福島県のうち最も変動したのが陸前高田市小友町のマイナス84センチである。宮古市での地盤沈下の最大値は、磯鶏の藤原埠頭でマイナス50センチである。以下、本町でマイナス44センチ、津軽石第11地割(駒形通)でマイナス42センチ、津軽石第9地割(新町)でマイナス33センチであった。地盤沈下の影響で干満の潮位差が大きくなる大潮の時は、沿岸部で浸水や冠水が発生し、港湾のかさ上げ工事が進められている。

(2) 人的被害と建物被害

東日本大震災による死者・行方不明者は12都道県でみられ、死者1万5千859人、行方不明者3千021人(平成24年5月30日警察庁発表)にのぼる(図表12)。明治以降では大正12年(1933年)の関東大震災(死者・行方不明者:約10万5千人)、明治29年(1896年)の明治三陸地震津波(同:約2万2千人)に次ぐ深刻な被害をもたらした。岩手県では4千670人をこえる死者、1千140人をこ

える行方不明者となっている(図表12)。また、岩手県・宮城県・福島県の3県では、犠牲者の死因の92・4%が溺死となっている(平成23年版「防災白書」)。

岩手県総務部総合防災室の発表によると、関連死を含めた死者数は5千089人、行方不明者1千144人、負傷者209人、家屋倒壊数は2万5千023棟となっている(平成25年9月30日現在・図表13)。岩手県の調べによると、宮古市の死者数は467人、行方不明者94人、負傷者33人で、家屋倒壊数は4千098棟である。宮古市の発表(平成24年11月6日現在)では、被災当時の居住地を基準とした死者数517人、行方不明者94人、家屋倒壊(半壊以上の住家)は4千005棟に及んだ。

(3) 宮古市の被害概要

宮古市発表の被害状況を見てみたい(65から66頁)。年代別に死者数を見ると死者517人のうち、70歳から79歳の126人(24・4%)、次いで60歳から69歳の122人(23・6%)、80歳から89歳の83人(16・1%)で60歳以上の高齢者が64%で約3分の2となっていることが分かる。住所別では、田老地区181人(35・0%)、宮古地区68人(13・2%)、磯鶏地区65人(12・6%)、鉾ヶ崎地区と津軽石地区が同数で57人(11・0%)、重茂地区48人(9・3%)となっている。

家屋倒壊数は、市全体で住家が4千449棟、非住家が4千639棟で合計9千088棟が被災している。被災した住家のうち全壊した住家が2千677棟で60・2%となることから今回の津波の強さ、被害の深刻さがうかがえる。参考までに震災時の市全体の課税台帳による家屋数(非住家を含む)は、3万9千907棟であった。

宮古市における被害総額は2千456億円を超えている(国・県の施設、鉄道、電信電話、電気事業者関係を除く)。平成22年度の宮古市一般会計総歳出額が296億641万7千円であるから、年間総予算の約8年分を超えたことになる。被害額のうち最も大きな割合をしめているのが、住宅被害で1千496億円で全体の約60%をしめ

【図表 10】平成 23 年東北地方太平洋沖地震 市区町村別津波浸水範囲面積

県	市区町村	浸水面積 (km ²)	市区町村面積 (km ²)	撮 影 日
青 森 県		24	844	
岩 手 県		58	4,946	
	宮 古 市	10	1,260	3月13日、4月1日、5日
	大 船 渡 市	8	323	3月13日、4月1日、5日
	久 慈 市	4	623	3月13日、4月5日
	陸前高田市	13	232	3月13日、4月1日
	釜 石 市	7	441	3月13日、4月1日、5日
	大 槌 町	4	201	3月13日、4月1日
	山 田 町	5	263	3月13日、4月1日、5日
	岩 泉 町	1	993	3月13日、4月1日、5日
	田 野 畑 村	1	156	4月5日
	普 代 村	1	70	3月13日、4月5日
	野 田 村	2	81	3月13日、4月5日
	洋 野 町	1	303	3月13日
宮 城 県		327	2,003	
福 島 県		112	2,456	
茨 城 県		23	1,444	
千 葉 県		17	689	
	合 計	561	12,382	

- ・ 浸水面積は、空中写真から水田や集落への浸水、瓦礫の痕跡から浸水位置を空中写真((衛)は衛星画像)を判読して算出(数値は湖沼、内水面を含む)。
- ・ 調査対象は津波による浸水被害があったと想定される太平洋沿岸全域(青森県下北八戸沿岸(物見崎以南)~千葉県(九十九里浜沿岸))
- ・ 市町村面積は「全国都道府県市区町村別面積調(平成22年10月1日現在：国土地理院)」による。(平成23年4月18日発表国土地理院「平成23年東北太平洋沖地震、市区町村別津波浸水範囲面積(概略値)第5報」より)

【図表 11】岩手県の各観測点における地盤沈下調査結果 一覧表

市町村名	所在地	変動量 (cm)	点名	基準点種別
宮古市	本町	- 44	6884	一等水準点
宮古市	津軽石第9地割	- 33	6879	一等水準点
宮古市	磯鶏第4地割	- 50	藤原埠頭	四等三角点
宮古市	津軽石第11地割	- 42	宮古	電子基準点
下閉伊郡山田町	船越第16地割	- 41	6870	一等水準点
下閉伊郡山田町	船越第2地割	- 43	6868	一等水準点
下閉伊郡山田町	船越第10地割	- 53	浦の浜	四等三角点
下閉伊郡山田町	織笠	- 54	山田	電子基準点
上閉伊郡大槌町	吉里吉里第13地割	- 35	6866	一等水準点
釜石市	平田第3地割	- 56	6808	一等水準点
釜石市	大平町3丁目	- 66	釜石大観音	四等三角点
釜石市	甲子町	- 56	釜石	電子基準点
大船渡市	大船渡町字地ノ森	- 60	6789	一等水準点
大船渡市	猪川町字富岡	- 73	宮田	三等三角点
大船渡市	盛町字中道下	- 72	盛	四等三角点
大船渡市	赤崎町字鳥澤	- 76	大船渡	電子基準点
陸前高田市	米崎町字高畑	- 58	6784	一等水準点
陸前高田市	小友町字西の坊	- 84	西の坊	四等三角点
陸前高田市	気仙町字双六	- 53	双六	四等三角点

備考：基準点の精度は約 10 cm、電子基準点の精度は約 1 cm
(国土地理院「平成 23 年 (2011 年) 東北地方太平洋沖地震に伴う地盤沈下調査」より)

【図表 12】 全国の人的被害・建物被害状況一覧

災害種別 都道府県	人的被害					建物被害								道路 損壊 箇所	橋梁 被害 箇所	山崖 崩れ 箇所	堤防 決壊 箇所	鉄 軌 道 箇所	
	死 者 人	行 方 不 明 人	負傷者			全 壊 戸	半 壊 戸	流 失 戸	全 焼 戸	半 焼 戸	床 上 浸 水 戸	床 下 浸 水 戸	一 部 破 損 戸						非 住 家 被 害 戸
			重 傷 人	軽 傷 人	合 計 人														
北海道	1			3	3		4			329	545	7	469						
東北	青森	3	1	25	86	111	308	701					1,006	1,402	2				
	岩手	4,673	1,144			212	18,460	6,563		33		6	14,191	5,401	30	4	6		
	宮城	9,537	1,297			4,148	82,896	155,095		135		7,796	222,824	28,745	390	12	51	45	
	秋田			4	7	11							3	3	9				
	山形	2		8	21	29							21	96	21		29		
	福島	1,606	207	20	162	182	21,192	73,034		77	3	1,061	338	166,834	1,117	187	3	9	
東京	7		20	97	117	15	198		1				4,847	1,101	295	55	6		
関東	茨城	24	1	34	678	712	2,626	24,238		31	1,799	779	185,531	19,923	307	41			
	栃木	4		7	126	133	261	2,118					73,180	295	257		40	2	
	群馬	1		13	26	39							17,246		36		9		
	埼玉			7	38	45	24	199		1	1		1,800	33	160				
	千葉	21	2	29	229	258	801	10,117		15	157	731	54,884	660	2,343		55	1	
	神奈川	4		17	121	138		41					459	13	160	1	2		
	新潟				3	3							17	9					
	山梨				2	2							4						
	長野				1	1													
	静岡			1	2	3						5	13	9					
中部															1				
岐阜																			
三重				1	1						2			9					
四国											2	9							
徳島																			
高知				1	1						2	8							
合計	15,883	2,652			6,149	126,583	272,315		297	3,352	10,218	742,867	59,285	4,198	116	207	45	29	

※ 警視庁緊急災害警備本部（平成 25 年 10 月 10 日）発表「平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震の被害状況と警察措置」より作成
 ※ 未確認情報を含む。
 ※ 4 月 7 日に発生した宮城県沖を震源とする地震、4 月 11 日に発生した福島県浜通りを震源とする地震、4 月 12 日に発生した福島県中通りを震源とする地震、5 月 22 日に発生した千葉県北東部を震源とする地震、7 月 25 日に発生した福島県沖を震源とする地震、7 月 31 日に発生した福島県沖を震源とする地震、8 月 12 日に発生した福島県沖を震源とする地震、8 月 19 日に発生した福島県沖を震源とする地震、9 月 10 日に発生した茨城県北部を震源とする地震、10 月 10 日に発生した福島県沖を震源とする地震、11 月 20 日に発生した茨城県北部を震源とする地震、平成 24 年 2 月 19 日に発生した茨城県北部を震源とする地震、3 月 1 日に発生した茨城県沖を震源とする地震、3 月 14 日に発生した千葉県東方沖を震源とする地震、6 月 18 日に発生した宮城県沖を震源とする地震、8 月 30 日に発生した宮城県沖を震源とする地震、12 月 7 日に発生した三陸沖を震源とする地震及び平成 25 年 1 月 31 日に発生した茨城県北部を震源とする地震の被害を含む

【図表 13】 岩手県の人的・建物被害状況一覧

	死者数（人）			行方不明者数（人）		負傷者数（人）	家屋倒壊数（棟） （半壊以上の住家）
	直接死	関連死	計	うち、死亡届の受理件数（件）			
陸前高田市	1,556	42	1,598	215	209	不明	3,341
大船渡市	340	74	414	79	75	不明	3,934
釜石市	888	98	986	152	151	不明	3,655
大槌町	803	50	853	433	429	不明	3,717
山田町	604	67	671	149	147	不明	3,167
宮古市	420	47	467	94	94	33	4,098
岩泉町	7	3	10	0	0	0	200
田野畑村	14	3	17	15	15	8	270
普代村	0	0	0	1	1	4	0
野田村	38	1	39	0	0	19	479
久慈市	2	1	3	2	2	10	278
洋野町	0	0	0	0	0	0	26
沿岸小計	4,672	386	5,058	1,140	1,123	74	23,165
内陸小計	0	31	31	4	4	135	1,858
計	4,672	417	5,089	1,144	1,127	209	25,023

岩手県総務部総合防災室発表「平成23年3月11日(本震・津波)及び4月7日(余震)に係る被害状況」（平成25年9月30日現在）より

※死者数のうち、直接死は岩手県警調べ、関連死は岩手県復興局調べ

※家屋倒壊数は、全壊及び半壊数を計上

る。商工労働関係施設が281億円、水産関係215億円、漁港施設150億円、観光施設136億円と河川・道路・橋梁などの公共土木施設77億円などとなっている。

A 田老地域

市北部に位置する田老地域は、太平洋に面する田老漁港を中心に市街地が形成される漁業の町である。摂待地区や小堀内地区など比較的小規模な集落が海岸部から山間部にかけて広く点在している。漁業が基幹産業で、アワビやウニなどの磯漁業、ワカメやコンブの養殖業が盛んである。田老鉱山の鉱毒水の影響によって姿を消したサケの増殖に取り組んだ結果、田老川にサケが遡上し津軽石川と共に本州一の座を分け合ってきた。

慶長16年・明治29年・昭和8年の津波で壊滅的な被害を受け、「津波太郎」とも言われるほどで、その歴史は津波との闘いであったとも言える。昭和三陸地震津波後は、市街地の区画整理と防潮堤の整備に取り組み、昭和54年に完成した総延長2千433メートルの大防潮堤は「田老万里の長城」とも言われた。さらに防災無線や津波避難路の整備・津波体験の伝承など、ハード・ソフト両面から防災に取り組み、平成15年には「津波防災の町」を宣言した。こうした「防災のまち」としての長年の努力も、今回の津波は市街地で津波浸水高16・6メートル、津波遡上高20・72メートルを記録するなど、巨大津波が第一・第三堤防を越え、第二堤防が破壊された。

防潮堤を越えた津波は、市街地を破壊しながら押し流し、平坦部は全て浸水、大平から長内川までの住宅全てが流失した。この壊滅的な被害により1千3百人以上が避難した。青砂里一和野・乙部・荒谷の熊野神社付近で山林火災が発生し、3月16日によく鎮火した。

田老第一小学校には被害がなかったが、田老総合事務所は道路に面した車庫が損壊した。田老第一中学校校舎は床上30センチの浸水、校庭はガレキで埋め尽くされた。田老魚市場・田老保育所・国民健康保険田老診療所・宮古消防署田老分署など主要施設は全壊した。田老漁業協

同組合ビルは全壊したが修理復旧している。

摂待地区は摂待漁港のあわび増殖センターが全壊、摂待海岸水門は扉が破壊され摂待川をさかのぼった。下摂待橋は流失したが、田老第三小学校は浸水しなかった。

B 宮古地域

宮古市は岩手県内でも陸中沿岸の中核都市に位置づけられ、宮古地域は宮古広域生活圏における中心として都市・産業基盤整備が進められてきた。

三陸漁場をひかえりアス式海岸の岩礁と閉伊川河口の砂浜により多様で豊富な漁業資源に恵まれる宮古湾は、重茂半島によって太平洋の荒波から守られた天然の良港でもあり、江戸時代より代官所が置かれ南部の宮古港として盛岡藩内随一の繁華地となった。「南部鼻曲り鮭」として本州一の水揚げを誇るサケ、サンマ・アワビ・ウニ・ワカメなど四季を通じて多様な海産物が水揚げされ、明治維新後も漁業と交易の町として発展してきた。昭和8年の三陸地震津波後に国策として銅精錬や石灰製造工場が誘致され、国鉄山田線が開通するなど都市として大きく発展した。戦後は藤原埠頭が整備され、港の後背地に合板を中心とする木材工業の企業が立地する搬入港となった。現在は金型・コネクタ―関連企業も誘致され、漁業・木材工業と共に重要な基幹産業となっている。

JRおよび三陸鉄道宮古駅を中心として商業施設が集積する「中心市街地地区」、金融機関や電気・通信事業者の社屋が並ぶ「愛宕・築地・光岸地地区」、魚市場や水産加工施設が集積し景勝地浄土ヶ浜を有する「鎌ヶ崎地区」、潮吹穴・姉ヶ崎などの景勝地や中の浜キャンプ場などの観光施設が点在する「崎山地区」、港湾施設や物流施設を有する「藤原地区」、市民文化会館や県立宮古短期大学・商業・水産高校が点在する「磯鶏地区」、住宅地が連なり三陸沿岸道路宮古南インターチェンジがある「高浜・金浜地区」、電子部品関連企業が集積する「津軽石・赤前地区」、漁村集落の「堀内・白浜地区」に分けることができる。

① 中心市街地地区

今回の津波は出崎埠頭を飲み込み、築地・新川町の堤防を越え市役所も2階まで浸水、閉伊川のJ R山田線の橋梁も6桁を流失した。津波は向町・大通から宮古駅、本町・新町・黒田町・末広町へと広がり、中央通り商店街には漁船が打ち揚げられた。本町・末広町商店街も1・5メートルほど浸水、車両が重なりガレキの山となり、中心市街地の被害は広範囲にわたった。

② 愛宕・築地・光岸地区

明治維新後に埋め立てられた築地地区、昭和12年に完成した出崎埠頭では、住家が流失し岩手銀行・N T T・東北電力などのビルは残ったもののほぼ1階が浸水した。国道45号線がガレキで不通になり、愛宕地区も国道沿いの住家が全壊し、地区の半分以上が浸水した。

③ 鍬ヶ崎地区

津波防潮堤のない鍬ヶ崎地区は、平坦部がほぼ全滅の被害となった。漁港の岸壁沿いにある魚市場や水産加工関連施設を破壊した波と蛸の浜の岬を越えた波が蛸の浜町でぶつかり、ドックで整備中の浄土ヶ浜観光遊覧船が港町に打ち揚げられた。鍬ヶ崎小学校は校庭と校舎昇降口まで浸水、体育館が床上浸水であった。

④ 崎山地区

女遊戸海岸の水門が破壊され、集落の半分以上が浸水、宮古栽培漁業センターが全壊した。中の浜キャンプ場も流失、宿漁港は岸壁が破壊され、日出島地区はほぼ全域が浸水した。

⑤ 藤原地区

藤原地区は中屋造船所前の水門が破れ、藤原埠頭の防潮堤を越えて津波が浸入、国道45号線を越えてJ R山田線の線路に達した。45号線周辺から海側の水産加工関係の工場や住宅、旧藤原保育所など被害が大きかった。藤原小学校は校庭が浸水した。

⑥ 磯鶏地区

磯鶏地区は防潮堤から海側の埠頭にある合板工場や運輸・倉庫施設はもちろん、三陸北部森林管理署・宮古市民文化会館など国道45号線

沿いに大きな被害が出た。津波はJ R磯鶏駅を越えて磯鶏西や上村まで浸水した。八木沢川沿いの合板工場、宮古水産高校まで浸水した。リアスハーバーも全壊、貯木場から木材(丸太)が流失した。

⑦ 高浜・金浜地区

昭和35年のチリ地震津波でも大きな被害が出た高浜・金浜は、国道45号はガレキのため不通、集落に車両が入れず孤立状態になった。高浜は国道45号線が走る堤防を津波が越えて浸水し、高浜地区センターが全壊するなどバス路線沿いで被害が大きかった。高浜小学校は校庭まで浸水した。

金浜地区は、防潮堤が30メートルほど破損し、平坦地の住家がほぼ全壊し、江山寺も浸水、金浜神社の鳥居が倒壊した。

⑧ 津軽石・赤前地区

津軽石は、津軽石川水門を越えて川を遡り、稲荷橋が水没した。法の脇地区もほぼ全家屋が流失し、津軽石駅付近で列車が脱線した。津軽石出張所・津軽石公民館が全壊し、本町では全壊した住家や床上1・5メートルもの浸水となった。津軽石保育所が全壊したが、津軽石小学校は校庭の浸水にとどまった。津軽石川を遡上した波が、根井沢川に入り新町下地区にも被害がでた。

赤前地区は北から入った津波が運動公園を飲み込み、真っ直ぐ南へ進んだ。平坦部の住家押し流し、大量のガレキが宮古工業高校のグラウンドに流れ込み、ふ化場まで浸水した。

⑨ 堀内・白浜地区

釜ヶ沢地区はほぼ全域が浸水し、小堀内・堀内・白浜地区も集落の半分以上が浸水した。地盤沈下のため満潮時や高潮で重茂半島線に海水が入るようになり、かさ上げ工事が行われている。

C 重茂地域

三陸沿岸で太平洋に突き出た重茂半島は、親潮と黒潮が交錯する豊かな三陸漁場が広がっている。ワカメ・コンブ・ウニ・アワビ・サケなどの漁業資源は、三陸沿岸随一の品質と水揚げ量を誇る漁業の地域

である。本州最東端の地で映画「喜びも悲しみも幾年月」の舞台となった鮎ヶ埼灯台の拠点となる姉吉キャンプ場、宮古湾を一望できる月山、原生林が残る十二神山など海と山の自然に恵まれる地域である。

半島である地域内の大部分が山林であり、人々の多くが重茂館・重茂里・音部・姉吉・千鶏・石浜など漁港の後背地と周辺の高台に居住している。リアス式海岸の特徴である深い入江と高い断崖がつづき、主要地方道重茂半島線は、赤前から海岸を通りカーブと坂をくり返しながら集落を結んでいる。

外洋に面するため、明治と昭和の三陸地震津波では大きな被害が出ている。明治・昭和の二度とも全滅の被害を出した姉吉は、津波記念碑を建てて高台に居住し、今回の津波では最高津波遡上高40・5㍎を記録しながら流失家屋がなかった。

半島西側で宮古湾に面した白浜・浦の沢・追切の漁港、外洋に面した立浜・鵜磯・荒巻・重茂・音部・姉吉・千鶏・石浜・川代、全ての漁港に津波が襲来し、防潮堤や護岸を破壊、集荷・荷さばき場や冷蔵庫、水産加工施設、サケ・アワビ種苗生産施設などが全壊した。漁船の被害は市全体で2千629隻に及んだ。

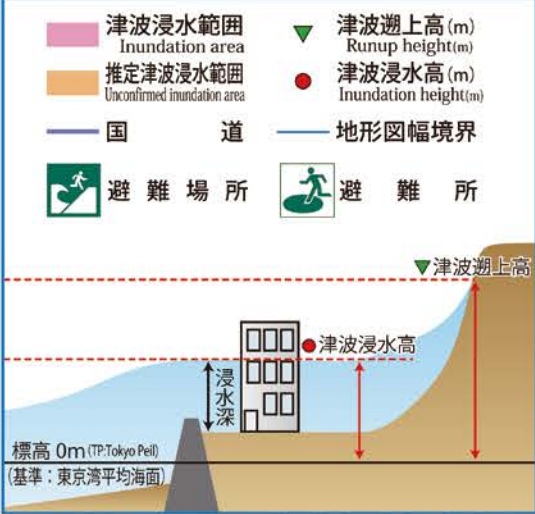
住家は音部里と重茂里でほぼ流失した。重茂里の向渡橋が落橋し、姉吉・千鶏・石浜が孤立する事態となった。千鶏は県道重茂半島線の上野商店まで津波が到達し、石浜も集落の半分ほどが浸水した。鵜磯小学校は校舎一階、千鶏小学校は校舎二階まで浸水した。

1

3 宮古市東日本大震災浸水図



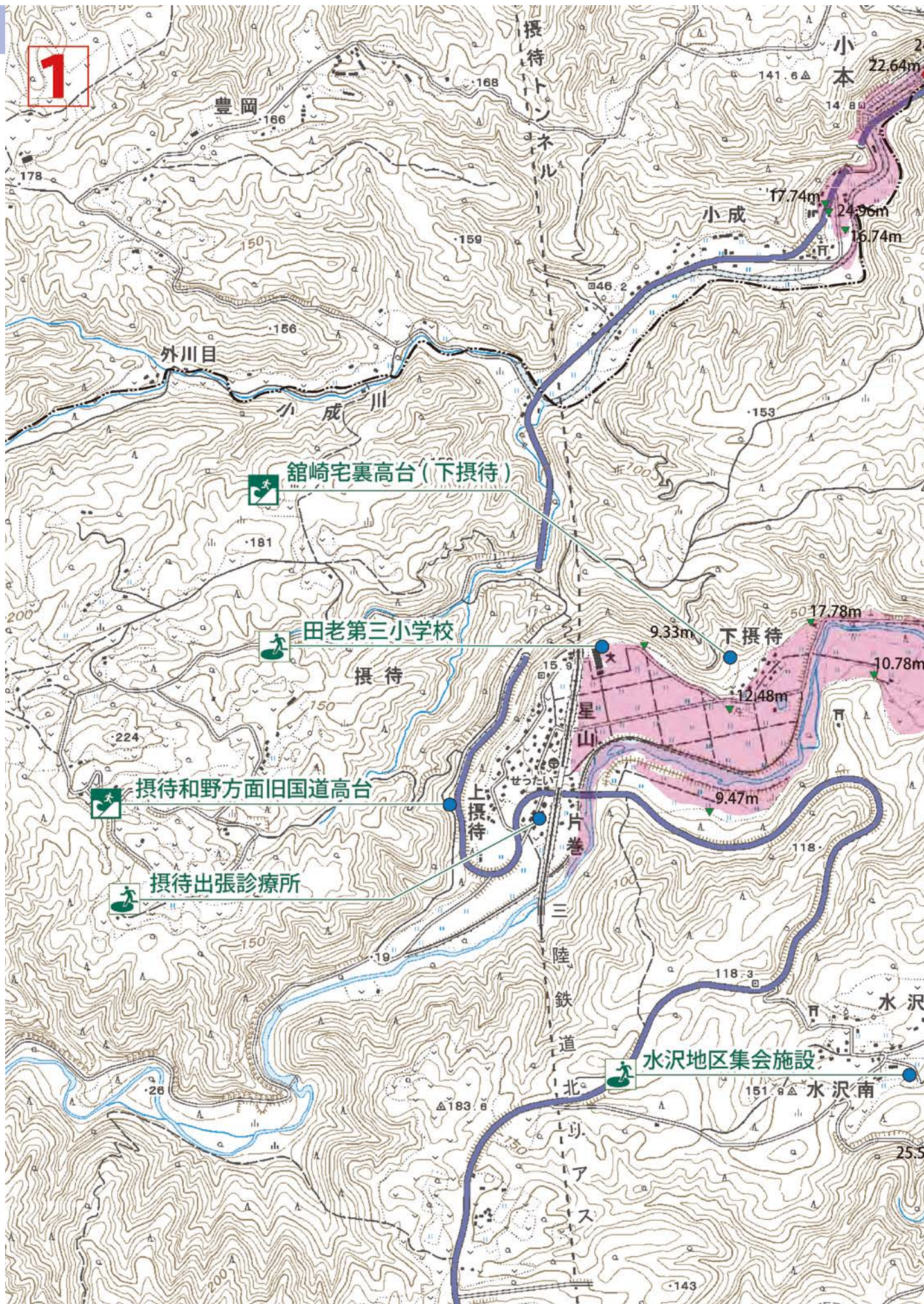
凡例 / Legend



注) 津波の高さは、「東北地方太平洋沖地震津波合同調査グループ」の成果による



1





青野滝地区集会施設



重津部集会所高台

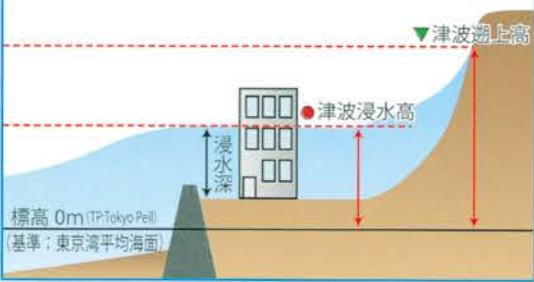


乙部野高台



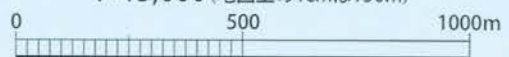
凡例 / Legend

	津波浸水範囲 Inundation area		津波遡上高(m) Runup height(m)
	推定津波浸水範囲 Unconfirmed inundation area		津波浸水高(m) Inundation height(m)
	国道		地形図幅境界
	避難場所		避難所

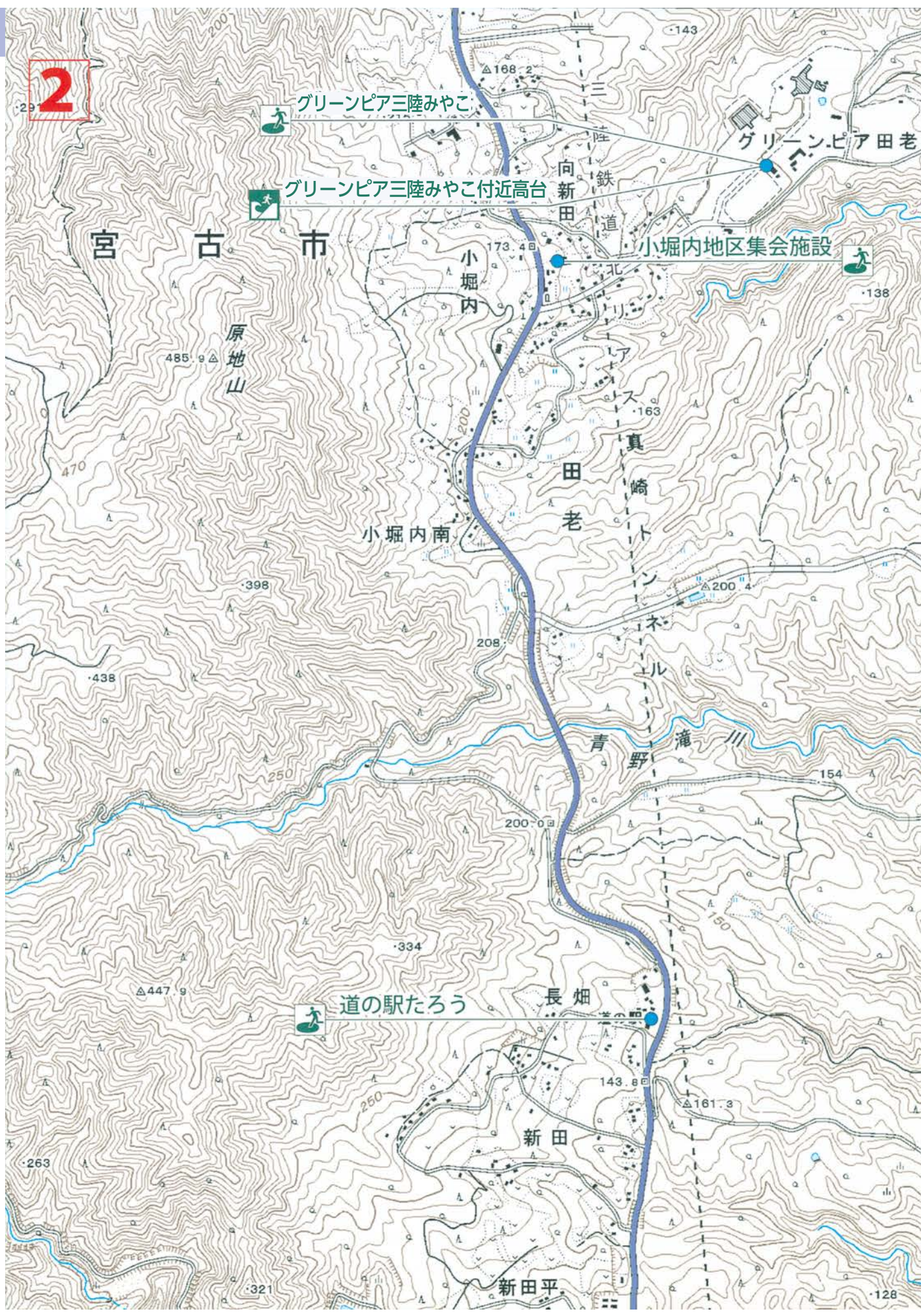


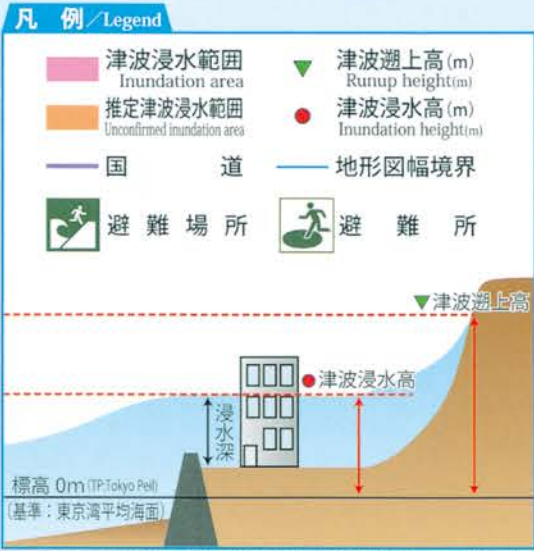
注) 津波の高さは、「東北地方太平洋沖地震津波合同調査グループ」の成果による

1:15,000 (地図上の1cmは150m)



2



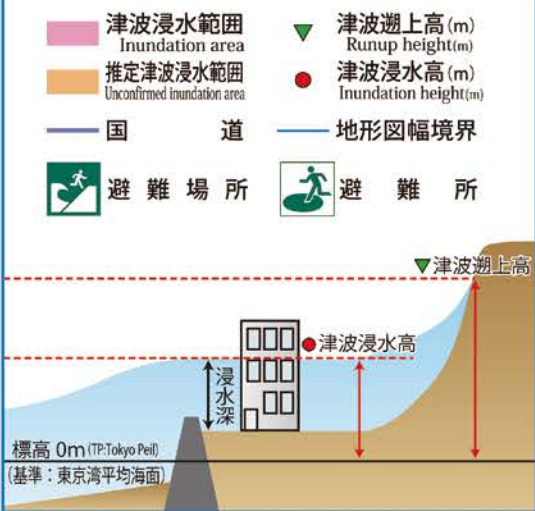


注) 津波の高さは、「東北地方太平洋沖地震津波合同調査グループ」の成果による





凡例 / Legend



注) 津波の高さは、「東北地方太平洋沖地震津波合同調査グループ」の成果による



1:15,000 (地図上の1cmは150m)



4





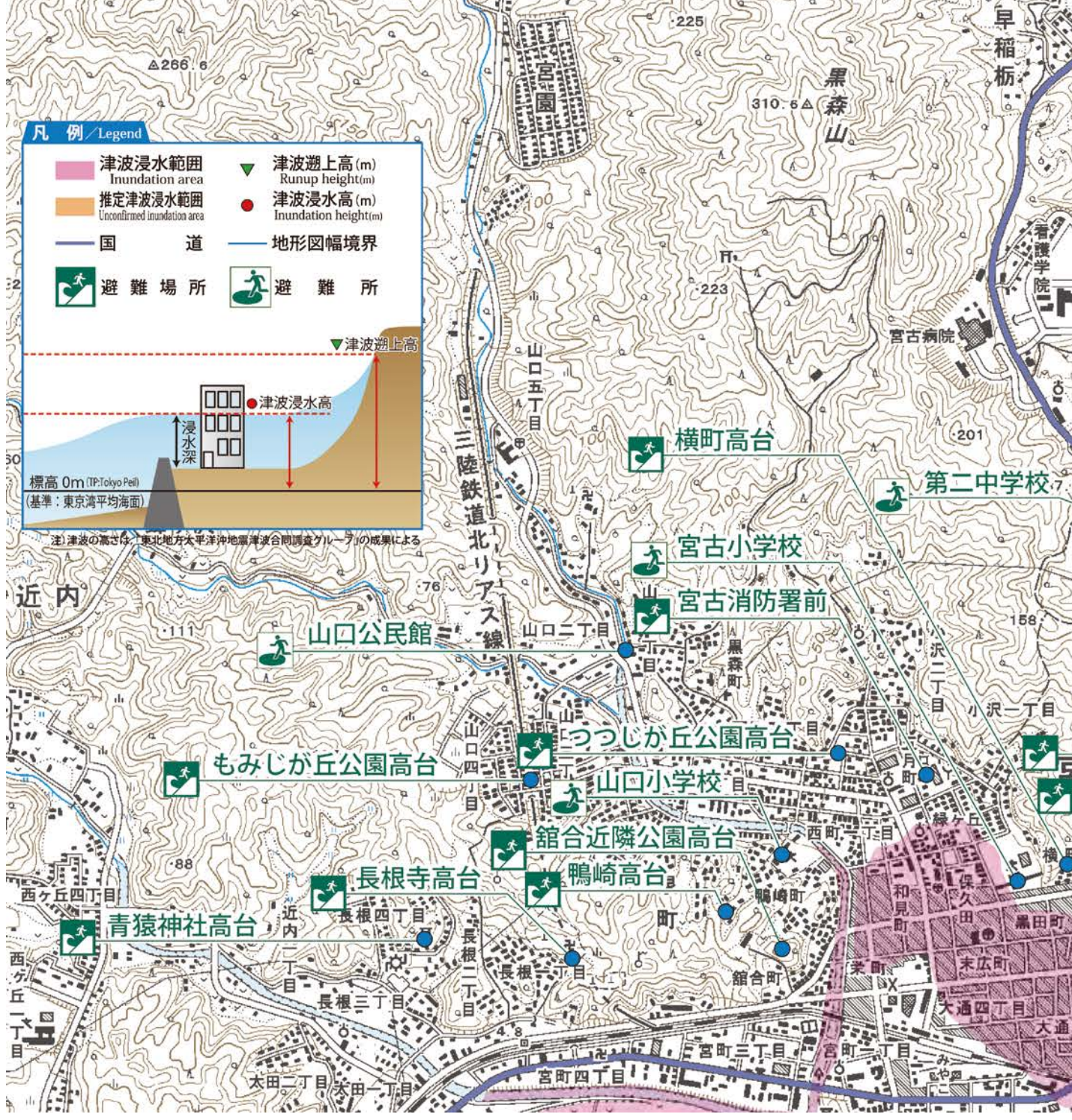
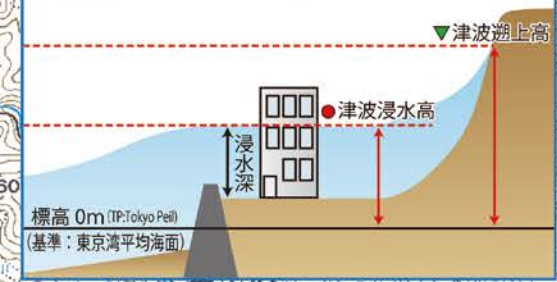
5

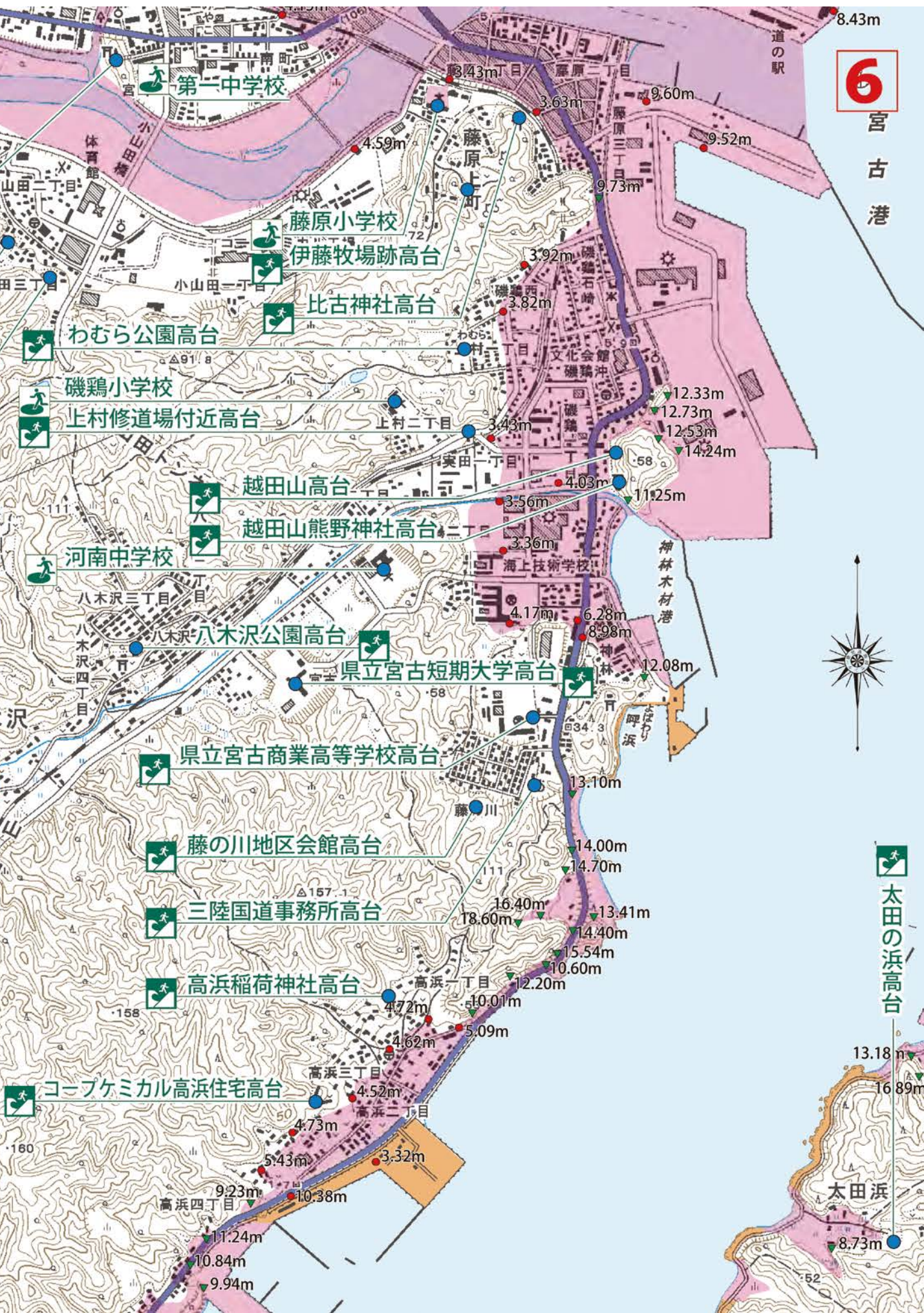
1:15,000 (地図上の1cmは150m)
0 500 1000m



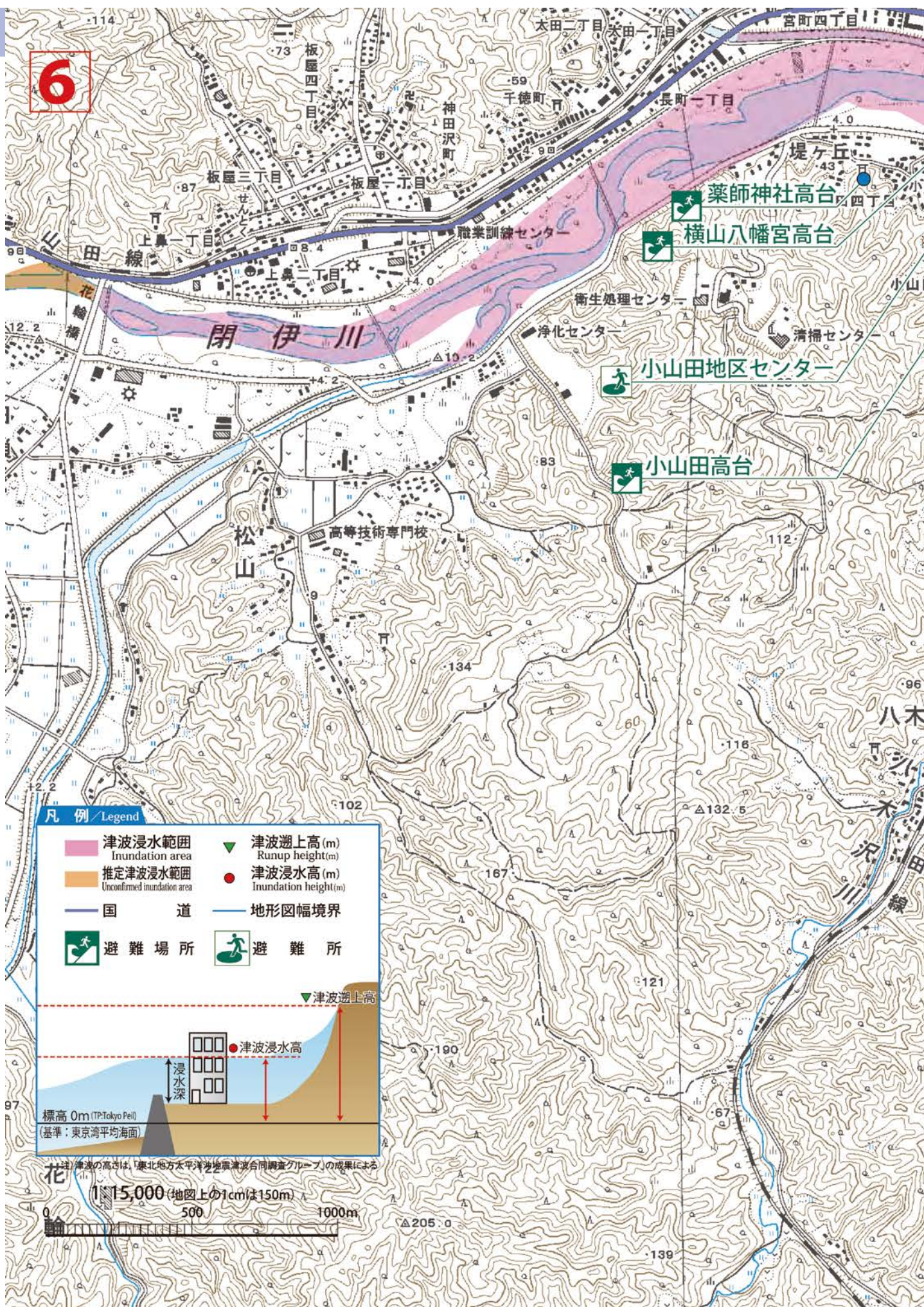
凡例 / Legend

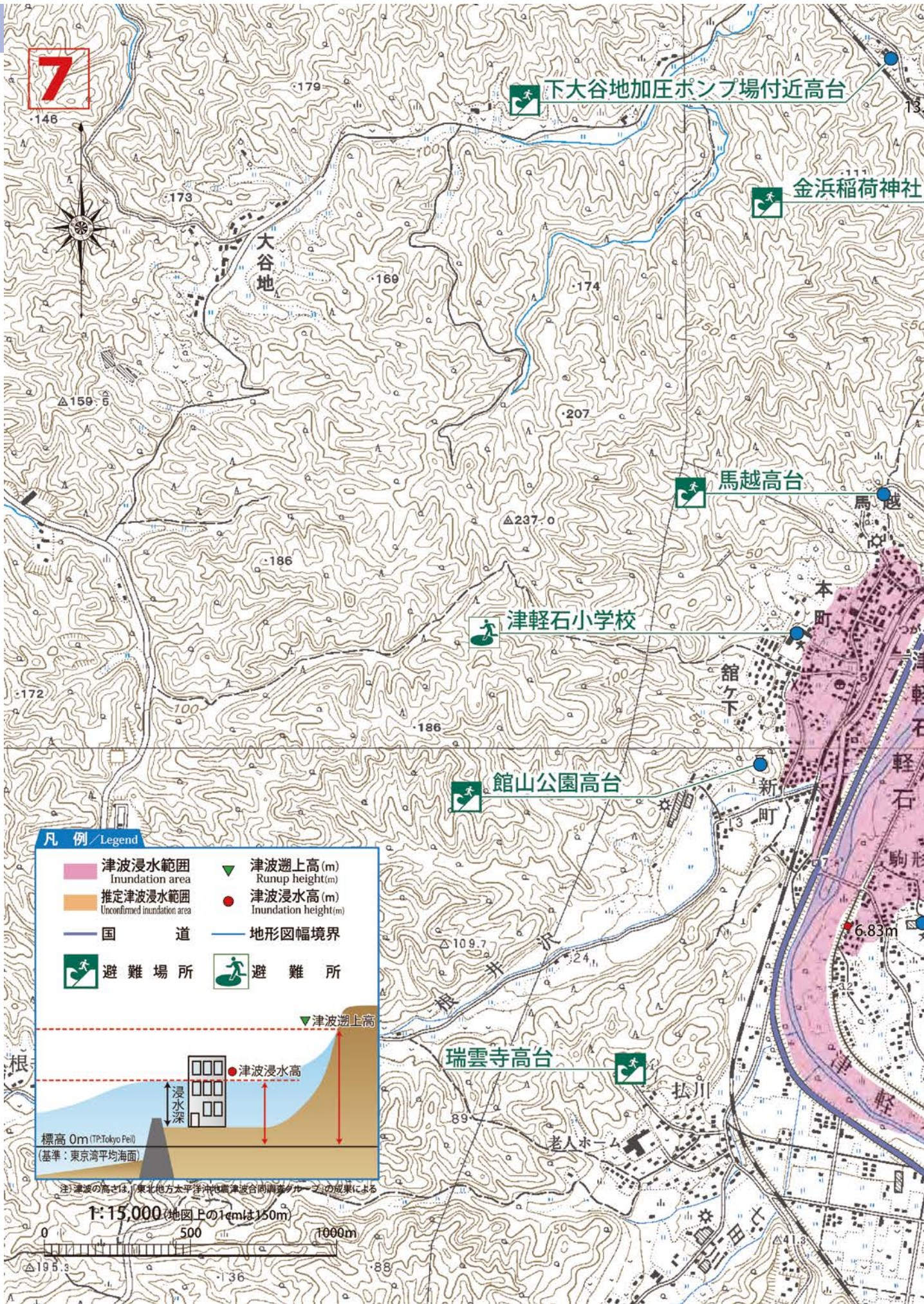
- 津波浸水範囲
Inundation area
- 推定津波浸水範囲
Unconfirmed inundation area
- 国道
- 地形図幅境界
- ▲ 避難場所
- ▲ 避難所
- 津波遡上高 (m)
Runup height (m)
- 津波浸水高 (m)
Inundation height (m)





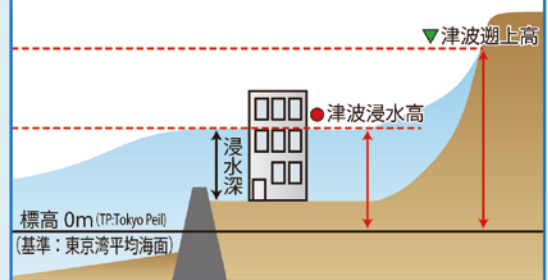
6



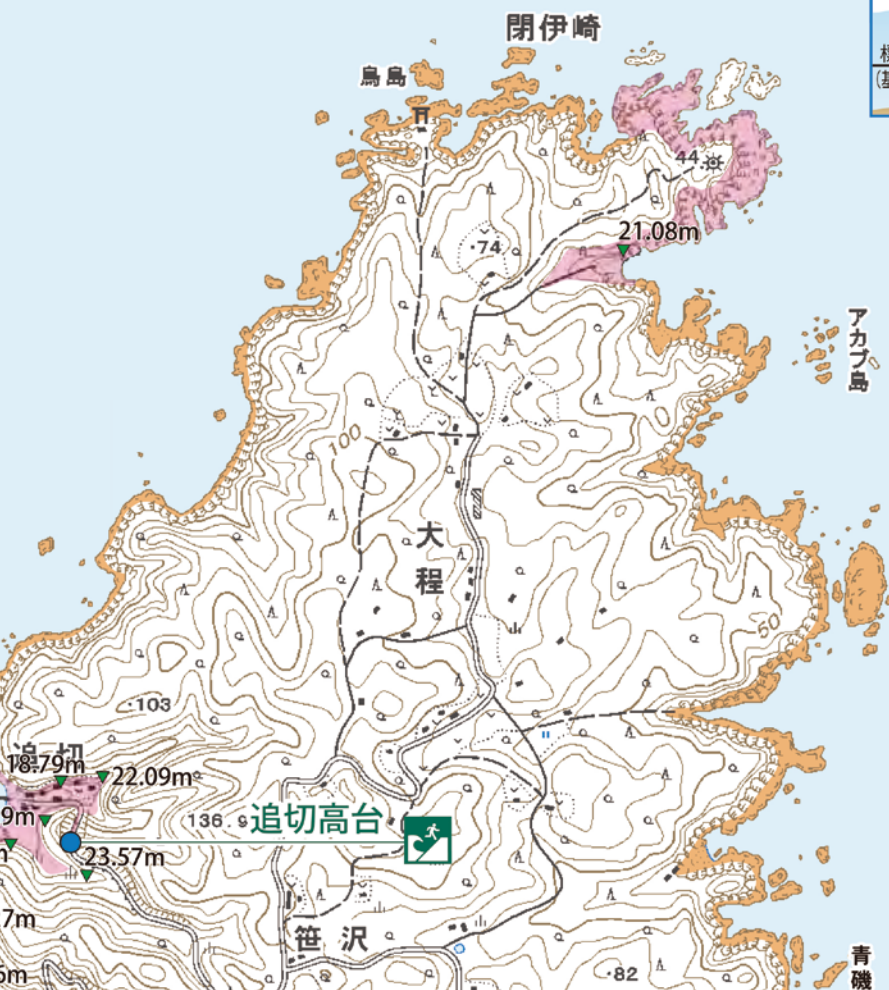


凡例 / Legend

- 津波浸水範囲
Inundation area
- 推定津波浸水範囲
Unconfirmed inundation area
- 国道
- 道
- 地形図幅境界
- ▲ 避難場所
- ▲ 避難所
- 津波遡上高 (m)
Runup height (m)
- 津波浸水高 (m)
Inundation height (m)



注) 津波の高さは、「東北地方太平洋沖地震津波合同調査グループ」の成果による

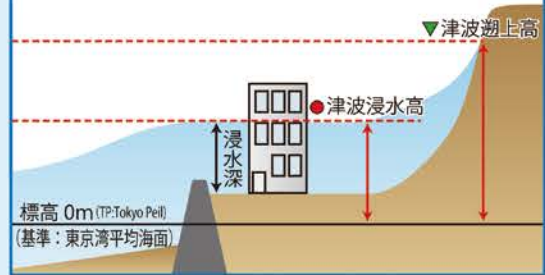






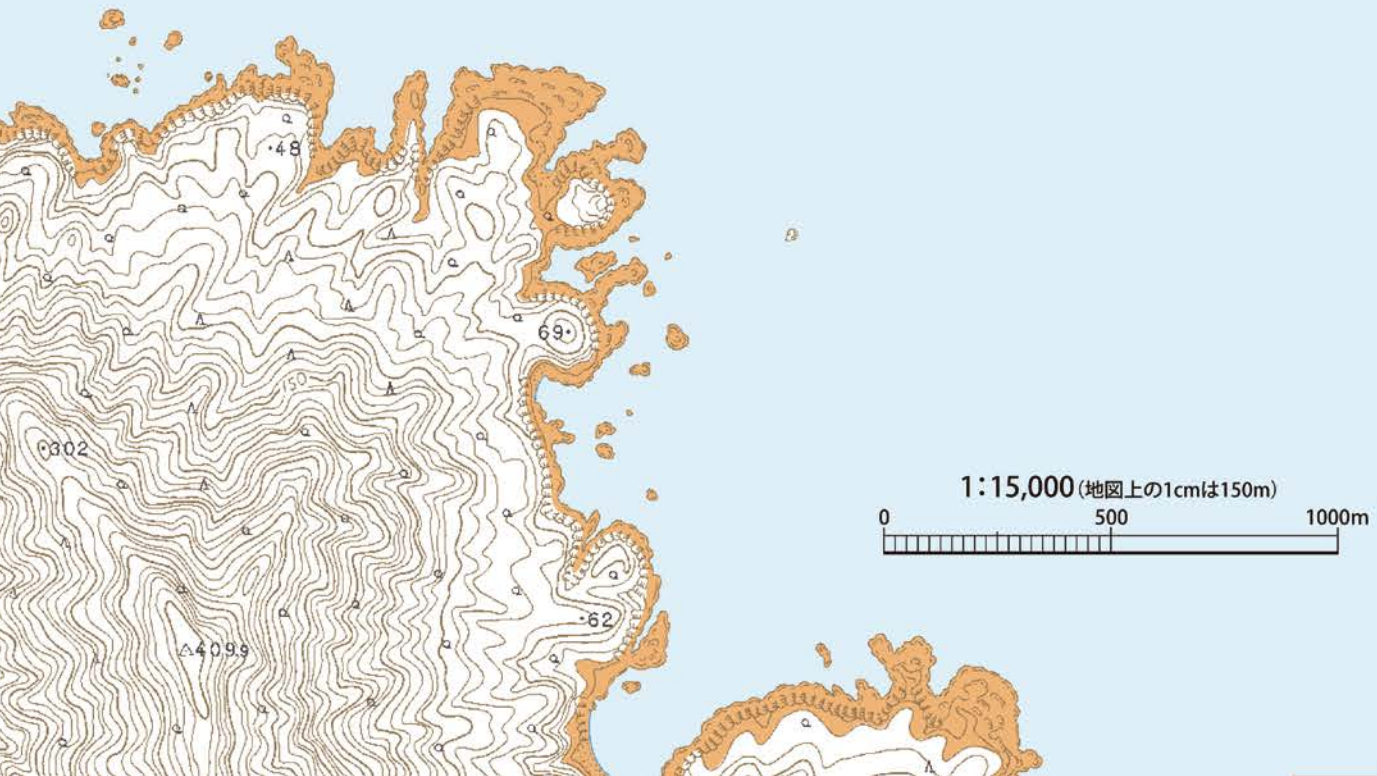
凡例 / Legend

- 津波浸水範囲
Inundation area
- 推定津波浸水範囲
Unconfirmed inundation area
- 国 道
- 避難場所
- 避難所
- 津波遡上高 (m)
Runup height (m)
- 津波浸水高 (m)
Inundation height (m)
- 地形図幅境界

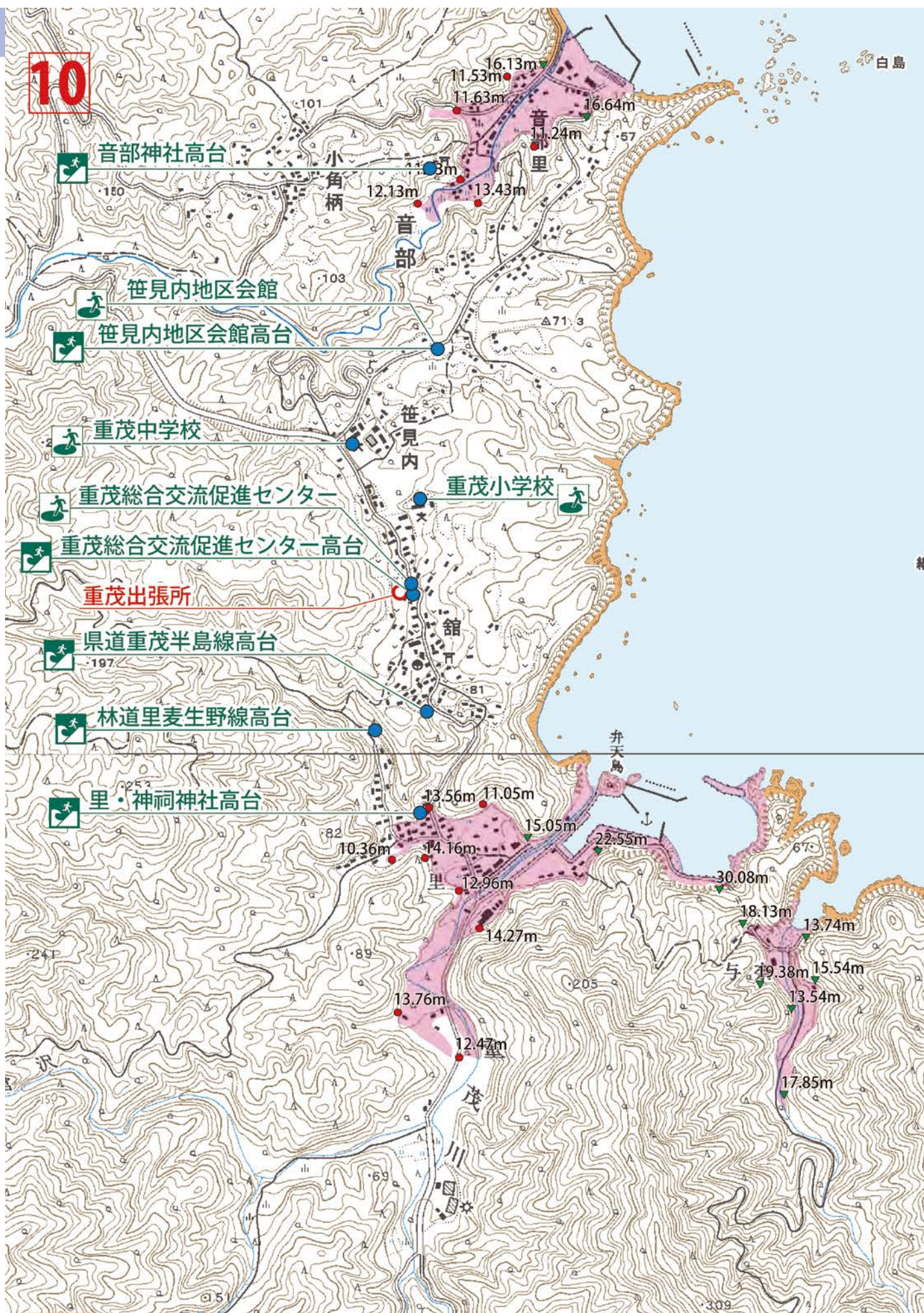


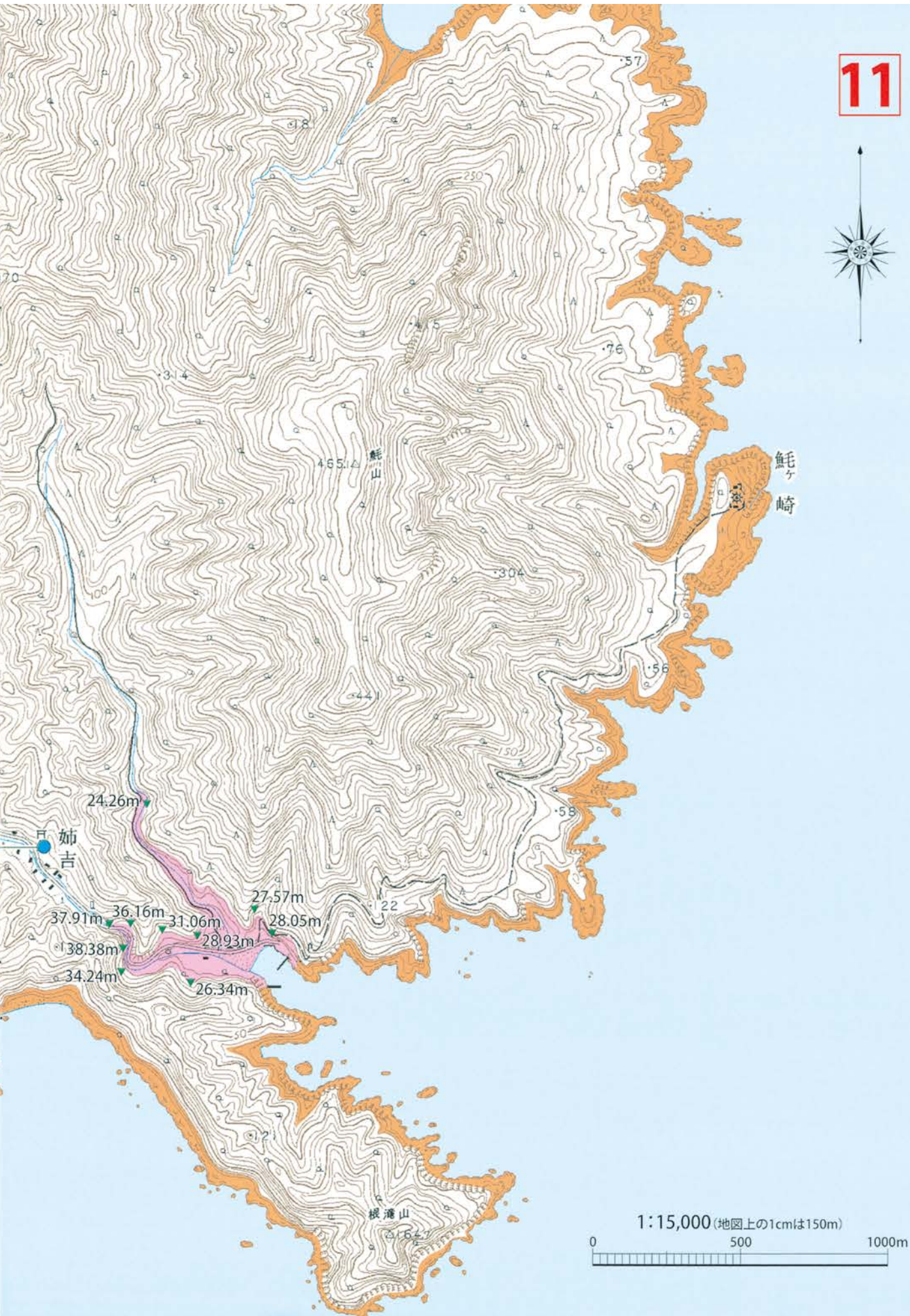
注) 津波の高さは、「東北地方太平洋沖地震津波合同調査グループ」の成果による

子島



10

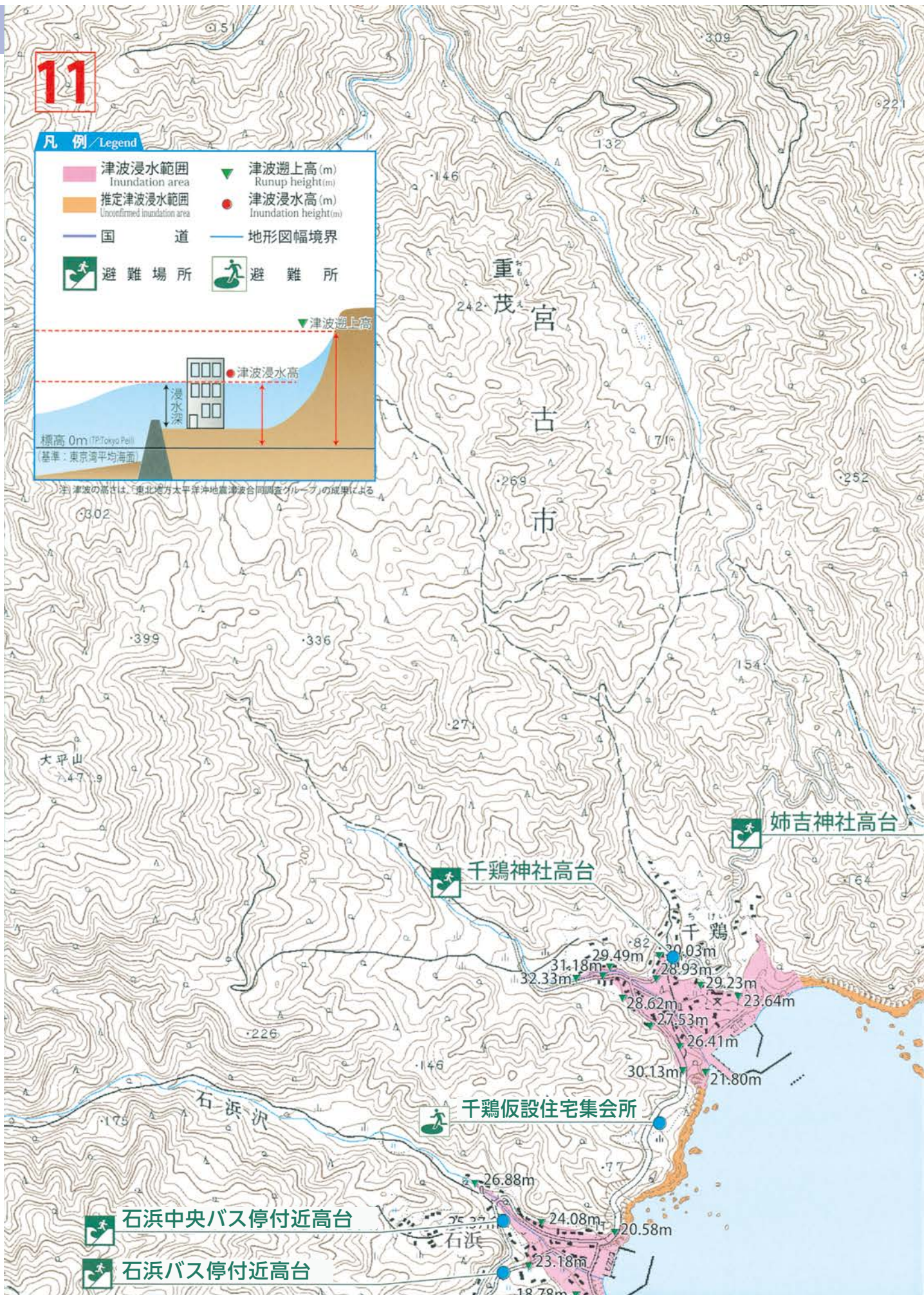
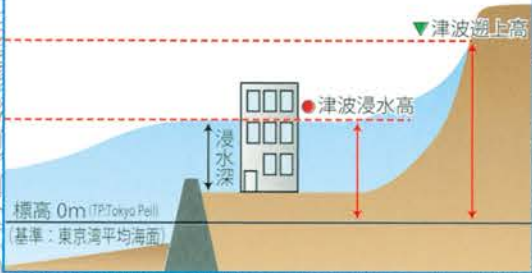




11

凡例 Legend

- 津波浸水範囲
Inundation area
- 推定津波浸水範囲
Unconfirmed inundation area
- 国道
- 道
- 地形図幅境界
- ▲ 避難場所
- 避難所



12

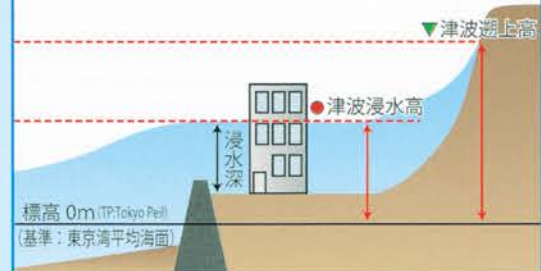


山
田
湾

姥登島

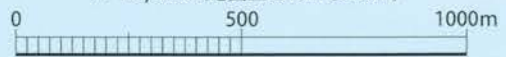
凡例/ Legend

- 津波浸水範囲 (Inundation area)
- 推定津波浸水範囲 (Unconfirmed inundation area)
- 国 道
- 避難場所 (Evacuation site)
- 津波遡上高 (m) (Runup height (m))
- 津波浸水高 (m) (Inundation height (m))
- 地形図幅境界
- 避難所 (Evacuation shelter)



注) 津波の高さは、「東北地方太平洋沖地震津波合同調査グループ」の成果による

1:15,000 (地図上の1cmは150m)



小根ヶ崎

115.0

仮宿崎

4 東日本大震災に伴う対応状況

(1) 「東日本大震災の記録」岩手県宮古市」より

東日本大震災に伴う対応状況（最終報）平成24年8月31日現在

1. 地震の状況（気象庁発表）

- (1) 発生時刻 平成23年3月11日 14時46分頃
- (2) 震源地 三陸沖（北緯38・1度、東経142・9度、牡鹿半島の東南東約130キロメートル付近）
- (3) 震源の深さ 約24キロメートル
- (4) 震源の規模 マグニチュード9・0（平成23年3月13日気象庁発表）
- (5) 震度 震度5強 茂市
- 震度5弱 五月町、鉾ヶ崎、長沢、田老、川井、門馬田代
- (6) 警報等の発表 平成23年3月11日 14時49分 大津波の津波警報
平成23年3月12日 20時20分 津波の津波警報に切替
平成23年3月13日 7時30分 津波の津波注意報に切替
平成23年3月13日 17時58分 津波の津波注意報解除

2. 津波の状況（気象庁発表）

- (1) 最大波 平成23年3月11日 15時26分 高さ8・5メートル以上（※1）
痕跡等から推定した津波の高さ7・3メートル（※2）
- ※1 後日現地でも回収した津波観測点の記録の分析結果
- ※2 津波観測点付近において津波の痕跡等から津波の高さを調査した結果（平成23年4月5日盛岡地方気象台発表）
- （参考）津波遡上高（陸地を駆け登り到達した津波の高さ）
- 田老小堀内地区 37・9メートル（東大地震研究所発表）
- 重茂姉吉地区 40・5メートル（学術合同調査グループ発表）

3. 宮古市災害対策本部の設置・廃止状況

- (1) 宮古市災害対策本部設置 平成23年3月11日 14時46分
- (2) 宮古市災害対策本部廃止 平成24年8月31日 17時00分

※これまで「宮古市災害対策本部（関係機関合同）会議」を78回開催し活動調整を実施

4. 水ひ門の閉鎖状況

- (1) 警報発表時 閉鎖水ひ門数 111箇所（宮古地区93箇所、田老地区18箇所）

※被災25箇所、うち宮古地区11箇所、田老地区14箇所

5. 避難状況

- (1) 避難指示発令 平成23年3月11日 14時49分
- (2) 避難指示解除 平成23年3月13日 17時58分
- (3) 避難指示対象 5千277世帯、1万2千842人
- (4) 避難者数 最大時85箇所、8千889人（平成23年8月10日に指定避難所を全て閉鎖）
- (5) 避難者対応
食事提供、炊き出し（一部避難所）、給水提供、毛布提供、日用品等提供、仮設トイレ設置（一部避難所）、入浴支援（一部避難所）、医療提供（医療チーム・宮古医師会）、衛星携帯電話等設置（一部避難所）など

6. 被害状況

(1) 人的被害及び住家等被害（平成24年8月3日現在）

人的被害		住家等被害	
死亡 届出者	死亡 認定者	合計	行方 不明者
407人	110人	517人	96人
		全壊	大規模 半壊
		5,968棟	1,335棟
		半壊	一部 壊
		1,174棟	611棟
		合計	
		9,088棟	

※死亡認定者と行方不明者は重複している。「死亡認定者」110人と「行方不明者」96人の差14人は、死亡認定の届出後に遺体またはDNA鑑定で行方不明者本人と特定された方の人数である。

7. ライフラインの復旧状況

(1) 電力（東北電力発表）

- ・ 3/14 県立宮古病院、県振興局復旧
- ・ 3/21 1万6千件の停電のうち流失約4千件、約1万2千件は復旧を進める

- ・ 3/25 市役所復旧（この間は発電機使用）、市内40%復旧（戸別復旧）
- ・ 4/15 東北電力営業所の受電完了

- ・ 4/30 市内完全復旧

(2) 上水道

- ・ 3/14 復旧率60%
- ・ 3/18 復旧率76%
- ・ 3/24 復旧率90%
- ・ 4/15 復旧率100%

(3) 通信

○ 固定電話

- ・ 3/30 宮古局復旧
- ・ 3/31 市役所光ケーブル復旧
- ・ 4/15 市内復旧（市内のすべての地区で復旧）

○ 携帯電話

- ・ 3/21 NTTドコモ一部復旧（重茂地区、田老地区以外復旧）
- ・ 4/15 NTTドコモとau完全復旧、ソフトバンク復旧（au、NTTドコモ（重茂里、鮎ヶ崎、中の浜周辺を除く）、ソフトバンク使用可能）

○ 特設公衆電話

- ・ 3/14 NTTの特設公衆電話、衛星携帯電話などを避難所に設置
- ・ 3/22 「みやこ災害エフェム/77・4MHz」により臨時災害放送

(4) 公共交通機関

- JR山田線
- ・ 3/26 宮古―盛岡間で通常ダイヤ運行、宮古―岩手船越間及び岩

泉線で代行バス運行

（閉伊川鉄橋（落橋）から津軽石にかけて線路流失：復旧方法検討中）

○ 三陸鉄道

- ・ 3/20 宮古―小本間で1日3往復運行開始
- ・ 3/29 1日4便で運行中

○ 県北バス

- ・ 3/16 106号バス再開
- ・ 3/18 全線再開

(5) 道路

- ・ 国道、当日から主要幹線の啓開作業開始、警察は交通規制開始
- ・ 国・県道と連携し、主要な市道から順次啓開作業を開始
- ・ 3/14 国道開通
- ・ 3/16 県道重茂半島線開通
- ・ 3/23 公道上の車両撤去完了（1千300台）
- ・ 3/29 概ね完了
- ・ 4/15 歩道の瓦礫撤去完了、以降、本復旧に移行
- ・ 7/31 JR山田線館合踏切の通行止解除

8. その他

(1) 応急仮設住宅（当初希望者分は平成23年8月11日までに入居済）

建設戸数		入居状況（平成24年7月6日までに入居済）		
箇所数	戸数	入居箇所数	戸数	入居者数
62箇所	2,010戸	60箇所	1,713戸	3,883人

(2) 適用された主な制度等

- ・ 激甚災害の指定（平成23年3月12日閣議決定）
- ・ 災害救助法の適用（平成23年3月12日岩手県知事が決定）
- ・ 被災者生活再建支援法の適用（平成23年3月12日岩手県知事が決定）

5 東日本大震災による死者数及び行方不明者数

平成 24 年 11 月 6 日現在

■年代（死者欄及び行方不明者欄の死亡認定者数は重複）

年代	死者			行方不明者 ※死亡認定者
	死亡届出者	死亡認定者	合計	
0歳～9歳	10人	9人	19人	9人
10歳～19歳	2人		2人	
20歳～29歳	10人	5人	15人	5人
30歳～39歳	16人	11人	27人	8人
40歳～49歳	28人	11人	39人	10人
50歳～59歳	56人	14人	70人	11人
60歳～69歳	91人	31人	122人	25人
70歳～79歳	106人	20人	126人	19人
80歳～89歳	74人	9人	83人	7人
90歳～99歳	14人		14人	
合計	407人	110人	517人	94人

■住所（死者欄及び行方不明者欄の死亡認定者数は重複）

地区	死者			行方不明者 ※死亡認定者
	死亡届出者	死亡認定者	合計	
宮古地区	63人	5人	68人	5人
鉾ヶ崎地区	48人	9人	57人	8人
千徳地区	11人	1人	12人	1人
磯鶏地区	58人	7人	65人	7人
崎山地区	8人	14人	22人	9人
花輪地区	5人	1人	6人	
津軽石地区	53人	4人	57人	3人
重茂地区	24人	24人	48人	20人
田老地区	136人	45人	181人	41人
新里地区	1人		1人	
合計	407人	110人	517人	94人

■性別（死者欄及び行方不明者欄の死亡認定者数は重複）

性別	死者			行方不明者 ※死亡認定者
	死亡届出者	死亡認定者	合計	
男性	182人	69人	251人	59人
女性	225人	41人	266人	35人
合計	407人	110人	517人	94人

□「死亡届出者」とは、平成23年3月11日現在において宮古市に住民登録があり、東日本大震災による直接的な原因（死因：溺死、肺炎など）で死亡した方である。

□「死者欄の死亡認定者」110人と「行方不明者欄の死亡認定者」94人の差16人は、死亡認定の届出後に遺体またはDNA鑑定で行方不明者本人と特定された方の人数である。

地区	死者			行方不明者 ※死亡認定者	
	死亡届出者	死亡認定者	合計		
宮古	新川町	7人		7人	
	向町	24人	1人	25人	1人
	大通	2人		2人	
	館合町	1人		1人	
	西町	1人		1人	
	山口	5人		5人	
	保久田		1人	1人	1人
	黒田町	2人		2人	
	築地	9人	2人	11人	2人
	愛宕	1人		1人	
	光岸地	11人		11人	
	宮園		1人	1人	1人
	63人	5人	68人	5人	
鉾ヶ崎	鉾ヶ崎	17人	3人	20人	3人
	中里団地	1人		1人	
	日影町	1人		1人	
	熊野町	3人	2人	5人	2人
	蛸の浜町	17人	1人	18人	1人
	山根町	5人	1人	6人	1人
	港町	1人		1人	
	日立浜町	3人	1人	4人	1人
	日の出町		1人	1人	
	48人	9人	57人	8人	
千徳	近内	3人		3人	
	西ヶ丘	1人		1人	
	長根	4人	1人	5人	1人
	太田	1人		1人	
	上鼻	1人		1人	
	板屋	1人		1人	
	11人	1人	12人	1人	

地区	死者			行方不明者 ※死亡認定者	
	死亡届出者	死亡認定者	合計		
磯鶏	藤原	5人	1人	6人	1人
	小山田	3人	1人	4人	1人
	磯鶏	8人		8人	
	上村	1人	1人	2人	1人
	河南	1人		1人	
	神林	3人	1人	4人	1人
	藤の川	2人		2人	
	八木沢	4人	1人	5人	1人
	高浜	4人	1人	5人	1人
	金浜	27人	1人	28人	1人
		58人	7人	65人	7人
崎山	崎山	3人	1人	4人	
	崎鉾ヶ崎	5人	13人	18人	9人
	8人	14人	22人	9人	
花輪	田鎖	1人		1人	
	松山	1人		1人	
	老木		1人	1人	
	長沢	3人		3人	
	5人	1人	6人		
津軽石	津軽石	28人	3人	31人	2人
	赤前	25人	1人	26人	1人
		53人	4人	57人	3人
重茂	重茂	21人	23人	44人	19人
	音部	3人	1人	4人	1人
	24人	24人	48人	20人	
田老	田老	136人	45人	181人	41人
		136人	45人	181人	41人
新里	刈屋	1人		1人	
		1人		1人	
合計	407人	110人	517人	94人	

6 東日本大震災による家屋倒壊数

■家屋倒壊数の内訳（平成24年6月29日現在）

単位：棟

地区別	住家					非住家				
	全壊	大規模半壊	半壊	一部破損	合計	全壊	大規模半壊	半壊	一部破損	合計
宮古	461	242	208	170	1,081	447	233	168	71	919
鉾ヶ崎	527	16	16	36	595	487	11	9	10	517
藤原	82	129	85	27	323	123	114	59	9	305
磯鶏	133	109	146	80	468	185	81	118	18	402
高浜	66	34	29	11	140	99	41	29	9	178
金浜	129	5	1	5	140	159	5	2	1	167
白浜	15	2	4	4	25	43	2	5	0	50
崎山	40	4	10	27	81	90	4	1	7	102
花輪	0	0	1	10	11	0	0	3	7	10
津軽石	414	116	104	49	683	538	124	88	20	770
重茂	81	4	3	8	96	295	11	6	6	318
田老	729	27	32	13	801	821	21	45	3	890
新里	0	0	1	2	3	3	0	1	5	9
川井	0	0	0	2	2	1	0	0	1	2
合計	2,677	688	640	444	4,449	3,291	647	534	167	4,639

地区別	住家				
	全壊	大規模半壊	半壊	一部破損	合計
宮古	908	475	376	241	2,000
鉾ヶ崎	1,014	27	25	46	1,112
藤原	205	243	144	36	628
磯鶏	318	190	264	98	870
高浜	165	75	58	20	318
金浜	288	10	3	6	307
白浜	58	4	9	4	75
崎山	130	8	11	34	183
花輪	0	0	4	17	21
津軽石	952	240	192	69	1,453
重茂	376	15	9	14	414
田老	1,550	48	77	16	1,691
新里	3	0	2	7	12
川井	1	0	0	3	4
合計	5,968	1,335	1,174	611	9,088

■家屋倒壊数の内訳（発災初期時の速報数値）

地区別	全壊	半壊	一部破損	床上水浸	床下水浸	合計
宮古	722	647	118	1,262	247	2,996
鉾ヶ崎	646	136		33		815
崎山	148	24		17	6	195
花輪						0
津軽石	426	136	57	287	56	962
重茂	118	4	1	11	2	136
田老	1,609	59		150	12	1,830
合計	3,669	1,006	176	1,760	323	6,934

※平成24年6月29日現在の数値は、震災時の住民票データを基に罹災証明書の申請件数を集計した。
重複疑いのある建物は、住宅地図等で確認した。

■住宅被害額

全壊	大規模半壊	半壊	一部破損
123,537,600千円	13,817,250千円	9,720,720千円	2,529,540千円
合計		149,605,110千円	

7 東日本大震災による被害推計総額

245,660,884 千円

被害区分	被害推計額 (千円)	調査率 (%)	備 考
庁舎等	470,178	100	庁舎・工作物・備品等被害
通信施設	9,366	100	テレビ共同受信施設被害
社会福祉施設	1,745,167	100	建物・施設被害
社会教育施設	523,705	100	建物・施設被害
文化施設	1,115,000	100	建物・施設被害
体育施設	655,467	100	建物・施設被害
水道施設	341,000	100	上水道・簡易水道等被害
医療・衛生施設	1,692,365	100	病院等・保健センター被害
消防防災施設	780,536	100	庁舎等・機械施設被害
観光施設	13,600,504	100	公共施設・民営施設被害
商工労働関係施設	28,107,000	100	商業関係・工業関係被害
水産関係	21,506,426	100	水産施設・漁船・漁具・養殖施設・水産物被害
漁港施設	15,033,087	100	漁港施設・海岸施設・漁場施設・漁村施設被害
農業施設	36,080	100	農業施設被害
家畜等関係	621	100	畜産物被害
農地農業用施設	1,629,325	100	農地・農業用施設・海岸保全施設被害
林業関係	426,920	100	林業施設・林産物・森林被害
公共土木施設	7,738,258	100	河川・道路・橋梁・公園・下水道被害
公営住宅等	422,393	100	公営住宅被害
学校	210,292	100	建物・工作物・土地・設備等被害
文化財	12,084	100	文化財被害
住宅	149,605,110	100	日本政策投資銀行「住宅資本ストックの被害」の推計方法を準用

東日本大震災による被害区分ごとの被害推計額内訳

被害区分	内訳（被害推計額／施設名等／被害状況）
庁舎等 470,178千円	【本庁舎等】（266,633千円／本庁舎2箇所、分庁舎／床上浸水） 【大通会館】（26,887千円／半壊） 【備品損壊】（167,658千円／本庁舎1階、公用車71台、電算一式） 【田老総合事務所車庫】（3,000千円／一部破損） 【中町バス待合室】（6,000千円／全壊）
通信施設 9,366千円	【テレビ共同受信施設】（9,366千円／中の浜、日立浜、磯鶏、津軽石下町、白浜、川代）
社会福祉施設 1,745,167千円	【市立保育所】（85,161千円／津軽石、田老、千鶏／全壊、新里／設備損傷） 【市立児童館】（3,842千円／高浜／床上浸水、田老／土地被害） 【民間保育園】（10,346千円／宮古保育園／半壊、そけい幼稚園／床上浸水） 【児童公園】（3箇所） 【児童遊園】（1箇所） 【老人福祉センター等】（95,213千円／磯鶏老人福祉センター、石浜地区介護予防拠点施設／全壊） 【タラソテラピー施設】（1,403,000千円／半壊） 【田老高齢者コミュニティセンター】（245千円／床上浸水） 【民間デイサービス施設等】（147,360千円／10箇所／全壊等）
社会教育施設 523,705千円	【自治会研修センター】（110,400千円／田老、乙部地区／全壊） 【公民館】（319,105千円／津軽石、鉾ヶ崎／全壊、磯鶏、田老／一部破損） 【地区センター】（94,200千円／高浜、堀内／全壊、鶴磯／半壊）
文化施設 1,115,000千円	【市民文化会館】（1,115,000千円／半壊、工作物損傷）
体育施設 655,467千円	【藤の川海水浴場】（23,000千円／トイレ等全壊） 【田老野球場】（562,079千円／全壊） 【田老ゲートボール場】（20,000千円／土砂流入） 【千徳体育館】（388千円／地下排水管破断） 【リアスハーバー宮古浮き桟橋】（50,000千円／工作物流出）
水道施設 341,000千円	【上水道施設】（223,000千円／8棟／設備等被害） 【簡易水道施設】（118,000千円／3棟／設備等被害）
医療・衛生施設 1,692,365千円	【宮古保健センター】（400,000千円／半壊） 【診療所】（600,000千円／休日急患診療所／半壊、国保田老診療所／全壊） 【民間病院等】（687,365千円／26施設／全壊等） 【公害試験室】（1,000千円／床上浸水） 【黒田町公衆便所】（4,000千円／半壊）
消防防災施設 780,536千円	【防災行政無線子局】（142,500千円／57箇所／流出等） 【防災行政無線戸別受信機】（92,350千円／1,847台／流出等） 【防災行政無線移動系無線】（26,680千円／46台／流出等） 【潮位観測装置】（17,000千円／3箇所／全壊） 【避難誘導標識等】（24,800千円／60箇所／全壊） 【避難路手摺】（2,000千円／5箇所100m／損壊） 【消防屯所等】（348,605千円／7、16、24、26、29、30分団／全壊、1、2、6、11、28分団／半壊、4、5、8、10、20、25分団／床上浸水） 【消防ポンプ自動車等】（126,262千円／15台／流出等） 【消火栓】（157千円／2箇所） 【防火水槽】（182千円／1箇所）
観光施設 13,600,504千円	【自然公園】（10,168,000千円／園地施設10箇所、野営場2箇所、浄土ヶ浜レストハウス、シャワー棟等3箇所） 【観光施設】（3,432,504千円／シートピアなど、潮里ステーション、ビービレッジ区界、民宿等33箇所）
商工労働関係施設 28,107,000千円	【被災事業所】（28,003,000千円／商業、工業事業所1,154箇所） 【宮古港湾労働者福祉センター】（104,000千円／全壊）
水産関係 21,506,426千円	【水産施設】（11,056,227千円／643箇所） 【漁船】（4,454,536千円／2,629隻） 【漁具】（1,871,561千円／33箇所） 【養殖施設】（1,701,994千円／2,973箇所） 【水産物】（2,422,108千円／14,252 t）

東日本大震災による被害区分ごとの被害推計額内訳

被害区分	内訳（被害推計額／施設名等／被害状況）
漁港施設 15,033,087千円	【外郭施設】（7,980,569千円／46箇所） 【係留施設】（624,449千円／26箇所） 【水域施設】（356,129千円／13箇所） 【輸送施設】（504,057千円／19箇所） 【漁港施設用地】（236,650千円／17箇所） 【堤防】（3,419,550千円／5箇所） 【漁業集落施設等】（294,539千円／7箇所） 【漁場施設】（1,617,144千円／2箇所）
農業施設 36,080千円	【農漁村センター】（36,080千円／金浜、千鶏／全壊）
家畜等関係 621千円	【畜産物】（621千円／生乳6,150kg）
農地農業用施設 1,629,325千円	【田】（836,133千円／60ha） 【畑】（66,993千円／15ha） 【用排水路】（55,939千円／120箇所） 【揚水機】（18,000千円／6箇所） 【農道】（39,260千円／120箇所） 【海岸保全施設】（613,000千円／1箇所）
林業関係 426,920千円	【治山施設】（16,800千円／4箇所） 【防潮林】（217,184千円／2箇所） 【林道】（105,600千円／59箇所） 【ほだ木】（8,920千円／49,100本） 【人口ほだ場】（10,800千円／3箇所） 【特用林産物】（3,066千円／77kg） 【乾燥機】（7,800千円／13台） 【その他機械等】（13,600千円） 【森林火災】（23,602千円／37.47ha） 【森林流失】（15,540千円／7.04ha） 【森林塩害】（4,008千円／1.37ha）
公共土木施設 7,738,258千円	【道路】（4,229,330千円／43箇所） 【橋梁】（24,182千円／13箇所） 【河川】（270,690千円／22箇所） 【下水道施設】（555,791千円／6箇所） 【漁業集落排水施設】（130,867千円／2箇所） 【都市公園】（2,527,398千円／6箇所）
公営住宅等 422,393千円	【公営住宅】（422,393千円／赤前東住宅9戸、重茂住宅10戸／全壊、女遊戸住宅10戸／半壊、金浜住宅13戸／一部破損、兄形団地住宅17戸／床上浸水）
学校 210,292千円	【小学校】（117,074千円／宮古小／設備損傷、鍛ヶ崎小／床上浸水、工作物損傷、磯鷄小／一部破損、山口小／設備損傷、千徳小／一部破損、高浜小／工作物損傷、赤前小／工作物損傷、鵜磯小／一部破損、工作物・設備損傷等、鵜磯小教員住宅／全壊、千鶏小／一部破損、工作物・設備損傷等、田老第一小／一部破損） 【中学校】（92,065千円／第一中／一部破損、重茂中／工作物損傷、田老第一中／一部破損、工作物・設備損傷等） 【給食センター】（1,153千円／新里給食センター／一部破損、重茂給食センター、川井給食センター／設備損傷）
文化財 12,084千円	【国登録有形文化財】（12,000千円／床上浸水） 【市指定有形文化財】（84千円／倒壊）
住宅 149,605,110千円	【住宅等被害】（149,605,110千円／5,968棟／全壊、1,335棟／大規模半壊、1,174棟／半壊、611棟／一部破損）
【被害推計総額 245,660,884千円】	

※国・県の施設、鉄道、電信電話、電気事業者関係等の被害を除く。

